

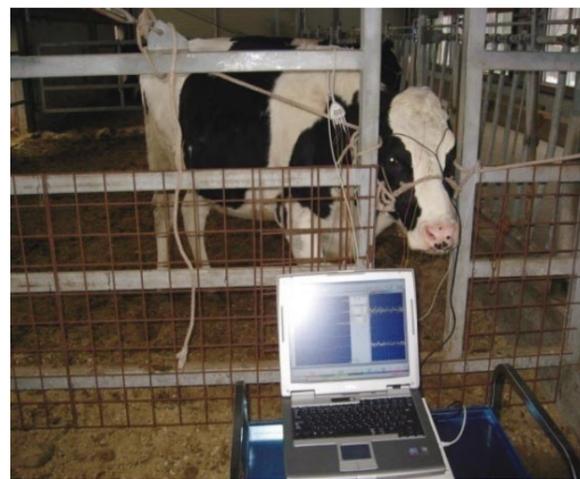
生きた牛に音の刺激を与えた時の脳波の一種から、 BSEの臨床検査に役立つ方法を開発

BSEプリオンを脳内接種したBSE罹患牛で、聴性脳幹誘発電位（BAEP）測定法により脳幹機能を調べると、BSEの症状の進行に伴い脳幹の特定部位においてBAEP波形に特徴的な変化が起こることを明らかにしました。
この手法は、起立困難などの神経症状を示した牛にBSEの疑いがあるか否かを絞り込む臨床検査技術として期待されます。

聴性脳幹誘発電位(BAEP)の
各波形の由来

波: 聴神経	波: 延髄
波: 橋	波: 中脳

BSE罹患牛にみられた音刺激に対して左右
両側の 波の出現の遅れと電位低下



BSE罹患牛のBAEP測定

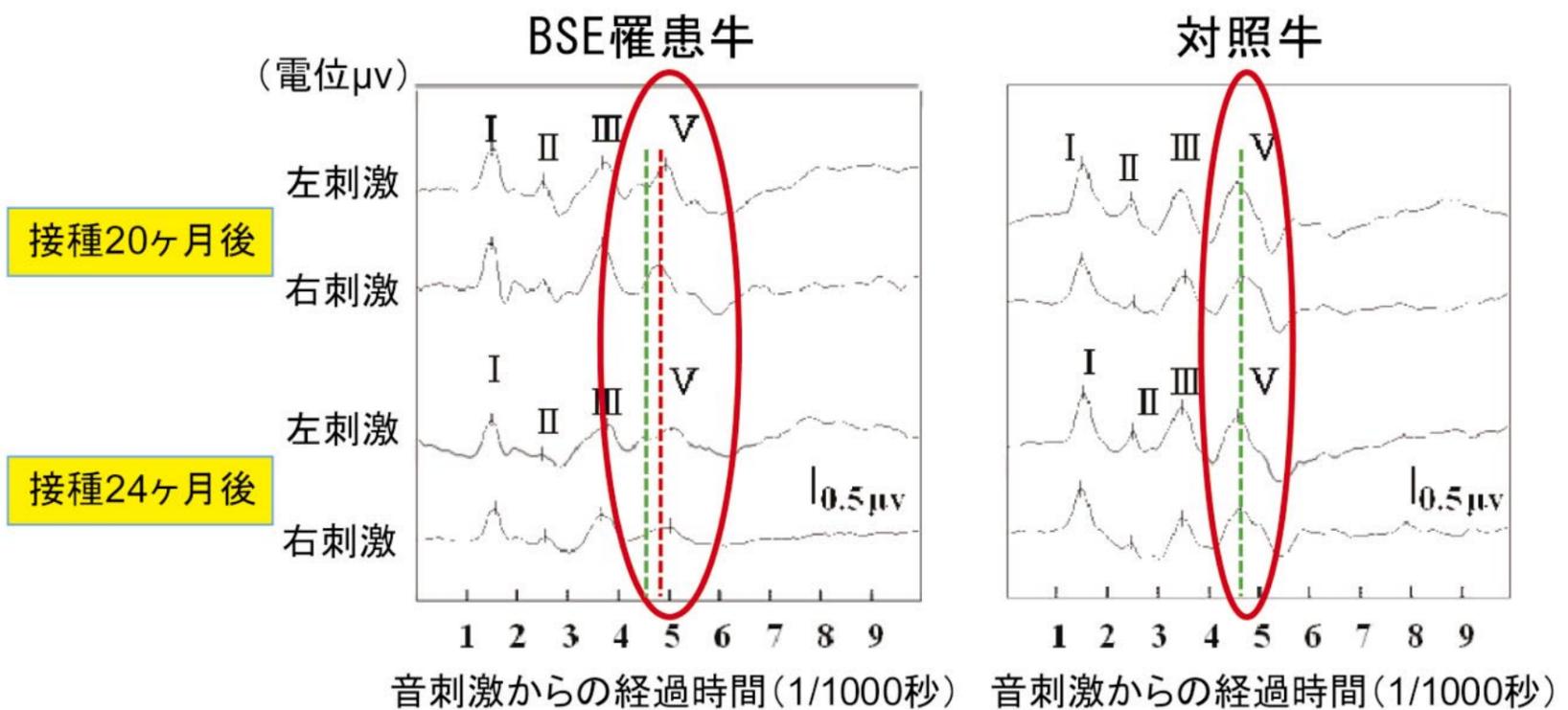


図. プリオン脳内接種20、24ヶ月後のBSE罹患牛及び対照牛のBAEP波形

This study was carried out to evaluate the features of neurological dysfunction in experimentally - induced bovine spongiform encephalopathy (BSE) infected cattle using brainstem auditory evoked potentials (BAEP). The progressive prolongation of peak latency of waves and was observed at the onset of neurological symptoms.